

## 報道記事の描写における日中の相違 主語及び話題の主題の意味役割を中心に

林 雅 芬

### Abstract

This paper analyzes semantic roles of both subject and Halliday's topical theme. The latter is defined as the initial experiential element of a sentence. The data for analysis is taken from Japanese and Chinese Internet news. The present analysis is essentially based on Halliday's notion of transitivity. We have found that the top-three semantic roles of subject and topical theme are as follows:

Japanese----subject: actor (26.8%) > carrier (20.9%) > goal (19.1%)

Chinese-----subject: actor (30.5%) > carrier (19.3%) > existent (16.3%)

Japanese----theme: actor (16.6%) > carrier (11.5%) > location (9.0%)

Chinese-----theme: sayer (27%) > actor (18.9%) > time (11.8%)

The result shows that, as far as theme is concerned, Chinese news tends to refer to 'time' and 'a sayer' to report an event more frequently than Japanese. For the subject position, on the other hand, the semantic role 'existent' ranks third in Chinese news, while the semantic role 'goal' replaces it in Japanese.

キーワード.....主語 話題の主題 意味役割

### 1 はじめに

報道記事は社会情勢を反映し、言語使用という点において、言語研究の材料としては見逃せないジャンルである。本稿は、言語学の視点より日本語と台湾で使用される中国語の報道記事を材料とし、両言語が物事の描写の上で、どのような共通点と相違点を持ち合わせているのかを見ることにする。

サピア・ウォーフの仮説によれば、人間の経験や思考の様式が言語習慣によって規定され、異なる言語を用いる人達の間では経験や思考の様式も違うとされる(研究社 1992:1070)。その「経験」と「思考の様式」とは単なる実際に行ってきたことや考え方に止まらず、感覚や表象を概念化する広義的なものである。

しかし、こういった言語相対論も未だに意見が多岐に渡り、言語習慣の相違が思考様式の相違に等しいという主張も疑問である。直接日中の思考様式の相違を論じることが困難なわけで、方法論としては思考を言語化した日中の文章を分析することが、この問題の一つの有力な接近

法となる。文章に具現化された日中の言語習慣の共通点と相違点を探ることによって、少しでも日中の発想の異同の解明に近づきたい。

## 2 研究方法

### 2.1 主題・主語卓立と主題卓立

日本語と中国語の相違として、基本語順に関しては、日本語は SOV で、中国語は SVO とされる。

例 1) 太郎が 花瓶を 壊した。

例 2) 太郎 打破<sup>壊した</sup>了 花瓶。

「花瓶を壊した」と中国語の「<sup>壊した</sup>打破<sup>了</sup> 花瓶」のように、日本語 OV と中国語の VO との語順の違いが学習者にとって意識しやすい文法の相違である。しかし、日中両語とも S が文頭に位置するということは、OV と VO との語順の違いよりも、一層「日本語らしい日本語」又は「中国語らしい中国語」に影響を与えているのだろう<sup>1)</sup>。

文頭に来る要素について、主語の他に、主題もその一つである。Li & Thompson (1976) は主語と主題（注目の中心 center of attention）の観点から言語の類型区分を行った。その中で、日本語は主題・主語卓立（both subject prominent and topic-prominent）言語で、中国語は主題卓立（topic-prominent）言語と分類された。英語のような主語卓立（subject-prominent）の言語は、表面形式上必ず主語を持ち合わせており、主題卓立の言語は表面形式上必ず主題を持つが、主語は必ずしも備えていないという。柴谷（1990）は、これを、表面形式上、日本語の主題と主語は明確に分離し、中国語の主題と主語は分離より、重なりが多いと解釈している。

一方、Tsao (1978:189) は、主語の統語論的性質と主題の語用論的性質を指摘し、主語卓立言語の英語が文指向（sentence-oriented）の言語で、主題卓立言語の中国語は談話指向（discourse-oriented）の言語であると主張している。主題・主語の卓立性、文指向・談話指向の概念は、言語類型論もしくは文・文章の理解の上で有意義な指摘である。しかし、これだけでは、日本語と中国語の運用面における相違点が十分解明ではない。

主語と主題の属する研究分野が異なっても、日中両言語において、同じく文の頭に生じしやすい要素としては、両者を関連付けて論じる必要があると思う。新聞記事に現れる主語と主題の生態系を観察することによって、中国語らしい文章、と日本語らしい文章を解析したいと考える。

### 2.2 主語・主題と文章の展開

永野（1986）は、「文章を構成するすべての文の主語が、文章全体を通じて何らかの相関関係をなしている」という「主語の連鎖」の観点から、日本語の文を主語と題目（ここで言う主

題)の有無によって、次のように分類している<sup>2)</sup>。

	有主語文	無主語文
有題文	判断文(「は」の主語の文 = 主題主語)	述語文(「は」の主語の省略された文)
無題文	現象文(「が」の主語の文 = 主格主語)	準判断文(もともと主語のない文)

主語連鎖図を作成して文法論的に文章の構造を考察することは、個々の文章の構造を視覚的に把握できるが、日本語と中国語の文章の一般的な相違を浮き彫りにさせることには、限界があるように感じられる。個別の文章の題材、内容面に関する差異を超えるには、より抽象的な概念を分析の基準にする必要がある。

### 3 分析の基準

#### 3.1 意味役割

外的世界と内的世界の各種概念・経験は、文法体系によって言語化される。Halliday (1994) は他動機能 (transitive function) から、英語の言語化の過程を「物質・行動・心理・発言・関係・存在」といった 6 つの過程型 (process type) に分類し、さらに過程中心部 (= 述語) と他動性に関する意味合いに基づき、参与要素 (= 必須要素) と状況要素 (= 随意要素) を 40 項目以上認定している。言語化された諸経験を類型化するという意味で、本稿の研究目的に役立つ概念である。

日本語と中国語との言語習慣の差異を顕在化させるため、本稿は Halliday (1994) を踏まえ、述語の種類と、各構成要素の述語に対する意味役割を次のように規定する。Halliday (1994) では言及されていない有情・無情の概念が導入された。有情名詞句は、主に人間をさすが、生命力を失った人間を指す死体・死者、もしくは人間性を備える国、政府機関も有情名詞と見なす。無情名詞句は、人間性を備えていないものを指す。

#### 述語の種類：

認識動詞：見える、思える、見る、思う、感じる、認める、判断する、考える、主張する、指摘する、要求する、批判するなどのような感覚、感情、知覚に関する動詞。

発言動詞：言う、話す、語る、引用する、定める、(~と) 示す、(~を~) とする、書く、記する、などのように、談話や引用などの動作に関する動詞。

関係動詞：～だ。～である。～になる。～できる。A 主体と A 主体に関する性質・状態・属性を結びつける動詞 (形容詞・形容動詞も含む)。

存在動詞：生じる、存在する、現れる、行く、降りるなどのように、ある主体の所在を表す動詞<sup>3)</sup>。

普通動詞： ～ 以外の動詞。他動普通動詞と自動普通動詞に分かれる<sup>4)</sup>。

意味役割の種類と定義：

(1) 動作・状態の主体

行為者（事柄）：自らの内部から動作を行う有情名詞句<sup>5)</sup>。無情名詞句の場合は、事柄と呼ぶ。

認識者：感覚、知覚、感情の持ち主。

発言者：言う、話す、語る、指摘する、引用するなどの発言動詞の主体

体现者（体现物）：そこに属性が結び付けられる有情名詞句。無情名詞句の場合は体现物と呼ぶ。

存在者(存在物)：生じる、存在する、現れる動作の有情主体。無情主体の場合は存在物と呼ぶ。

(2) 動作・状態の客体

対象者（対象物）：動作の影響を蒙る有情名詞句。無情名詞句の場合は対象物。

内容：発言という動作の内容。認識される内容。

属性：述語に結び付けられた物事の性質。

(3) 動作・状態の状況要素

相手：主体と共に動作と属性に関与する。

場所：動作が関与する場所、起点、到着点。

時間：動作が関与する時間。

手段：動作が関与する方法、道具。

理由：動作の目的、原因。

範囲：動作の範囲。例えば、～に関して。～について。

様態：動作の有り様、状態。

情報源：述べられている事態の根拠、情報の出所。～によると～<sup>6)</sup>。

動作・状態の主体、動作・状態の客体、そして Halliday (1994) に従って名づけた状況要素などの分類は、意味役割の動作・状態に対する性質に基づいて区分したものである。必ずしも動作・状態の主体は文法上の主語、動作・状態の客体は文法上の目的語になるとは限らない。また、以上の分類は日本語と中国語の文章の概念的・経験的内容を対照的に研究するために試みて設けたに過ぎない。全ての言語に普遍的に当てはまるとは主張しない。各種述語と意味役割の具体例は次のように挙げられる（【 】の中は記事の話題と出所を表し、「4 考察」を参照）。

例 3) 時間 + 事柄 + 自動詞：出火当初、爆発音が した。【日本ビル火災 A】

例 4) 私は { 女性が 天皇に なるのは 悪くない } と思う。【女性天皇に賛同 Y】  
認識者 + { 内容 = 体现物 (= 体现者 + 属性 + 関係) + 関係 } + 認識

例 5) ローマ法王ヨハネ・パウロ 2 世は、ギリシャに続いて シリアに 入り、6 日、首都ダマスカス  
存在者 時間 場所 存在 時間 場所  
にある ウマイヤド・モスクを 訪問した。【法王のモスク訪問 A】  
存在 (修飾節の主語：存在物)対象物 他動詞

例 6) フェルナンデス国防相も{ 「カシミール地方の当局者と 連絡を とっている」} と述べた。

発言者 { 内容「相手 + 対象物 + 他動詞」} 発言【インド国会テロ A】

例 7) 対象者 + 手段 + 他動詞：大衆を演説で扇動し、【比乱闘 A】

例 8) 理由 + 存在者 + 存在：激しい投石で けが人が 続出、【比乱闘 A】

例 9) 同事務所などによると、男の靴は かかとに 穴が 開けられ、【靴に爆弾 Y】

情報源 範囲 場所 対象物 他動詞受身

例 10) 行為者 + 様態 + 対象物 + 他動：治安部隊が 一斉に 威嚇射撃を 開始、【比乱闘 A】

### 3.2 主語と主題

主語と主題の定義、特に主題について先行研究の記述を吟味してみる。

久野 (1973) は日本語のガを「中立叙述」と「総記」、ハを「主題」と「対照」と認める。しかし、「総記」と「対照」はそれぞれ「中立叙述」のガと「主題」のハとは無関係だとは言いきれない。天野 (1998) は総記の機能がガの格機能に付随すると記しており、述語と選択・呼応関係がある限り、総記のガも主語と見なすべきであることが示唆されている<sup>7)</sup>。また、Fukuda (1995) は八名詞句の主題性の強さがその対照性の弱さと平行すると述べており、「主題」と「対照」との境界線があいまいであることが伺える。

「X について述べる」の X を表わす主題の定義に従えば、実際話題が入り組む新聞文章を検証する際に、主題と対照の判断が付かないケースは少なくない。

野田 (1996:293) は日本語の主題を表す一般的な手段として次の三項目を挙げている。

(ア) 語順 主題の成分を他の成分より前におく

(イ) 音声 主題の部分と他の部分を区切るポーズをおく

(ウ) 形態 主題に主題を表すマーカーをつける(日本語では「は」をつける)

しかし、永野 (1986) は、「主題主語」を形作る例として、ハのほか、～ト言エバ、～ナラバなども列挙した。また、ハのような主題を明示する標識のない中国語との対照分析を考慮すれば、言語形式に基づく主題の判断基準は本稿では適用できないと言える。

野田 (1996) の (イ) に関して、Tsao (1978)、曹 (1995)、屈 (2000) も中国語の主題の部分はポーズやポーズを表す助詞 (間投詞) 「呢」「啊」によって他の部分と区切られると言及している。しかし、屈 (2000) は文法的な結びつきが強くなるに従い、ポーズを入れる必要性がなくなるとも指摘している。例 11) はポーズを入れたほうが自然だが、例 12) はポーズをいれると不自然な文になってしまう (下線は主題。例文は筆者の作例)。

例 11) 那個問題 我來 想 辦法。

その問題は 私が 考える 解決法を (その問題は私が解決法を考える)

例 12) 他 去 學校 了。

彼は 行く 学校 ~た (彼は学校へ行った)

そのため、文法構造に基づく主題の定義がもっとも客観性が保てる。Halliday (1994) は主題の定義と最大限の主題 (p55) を次のように提示している。

The Theme is the Element which serves as the point of departure of the message; it is that with which the clause is concerned.(p37) ...the Theme can be identified as that element which comes in first position in the clause.(p38)

well	but	then	Ann	surely	wouldn't	the best idea	be to join the group
continuative	structural	conjunctive	vocative	modal	finite	topical	Rheme
textual			interpersonal			experiential	
Theme							

主題はメッセージの出発点で、節の最初の位置に来る要素と定義されている。その下位分類として、継続的・構造的・接続的・呼格的・法性的・定形的・話題的の各種類に分かれ、それぞれテクスト的・対人関係的・経験構成的主題といった上位部門に属する。本研究が考察する主題は新聞記事の各文の最初の主節に生起する話題的主题に限る。

Halliday (1994) の話題的主题と、野田 (1996) の (ア) の語順に基づく主題の手段とは重なる部分がある。また、Tsao (1978)・曹 (1995:38) も中国語の主題が主題連鎖 (topic chain) の最初の文の文頭に生起すると論じている。さらに、日本語と中国語に共通する文中の要素を文頭に移動する話題化 (topicalization) の現象を考慮すれば、Halliday (1994) の文頭に生起する話題的主题 (以下、特別な断りがない限り、主題と省略する) は妥当な定義である。「～について」の定義の有題文の主題 (例 12 他 = 彼は) は Halliday (1994) の話題的主题と同じだが、例 13) の無題文においては違いが伺える (下線部は話題的主题)。

例 13) 外面 來了 一個學生。  
そとから やってきた 一人の學生が (外から學生がやってきた)。

なお、「～について」の主題と取り立てとの関係についても、研究する価値はあるが、紙幅の関係で本稿は言及しないことにした。

### 3.3 意味役割・主語・主題の三本立て

本研究は意味役割、主語、主題との三つの概念に基づき、日本語と中国語の新聞記事において、主語と主題は各自どのような意味役割からなり立ちやすく、お互いどのような関係にあるのかを分析してみる。

意味役割・主語・主題の認定の対象は具体的に次のようなものに限る。

意味役割：接続語・独立語を除く、文の直接構成要素である主語・補足語・連用修飾語に対して、述語との意味関係を認定する。文の間接的構成要素である並立語と連体修飾語に対しては認めない。文の中に含まれている節も、前述した規定に準じて、その内部の構成要素に対して、意味役割を認定する。ただし、例 14) のような、「と、及び」によって緊密に結ばれる二つの名詞句からなった連体修飾節の内部の意味役割は分析しない。

例 14) 逮捕状は不正な資産公開による偽証と、たばこ交付税にからむ汚職の 2 容疑について、出さ

れた。【比前大統領逮捕 A】

主語：単文・複文・重文、さらにその節におけるそれぞれの述語に対して、それぞれ一つの主語を認めるが、文脈から主語を復元できない未成節 (undeveloped clause) においては認めない。

主題：一つの文に対して、その最初の直接構成要素のみを主題と見なす。

また、次例のように、主節に依存する従属節は二種類区別できる。従属節 は被修飾成分である「従業員の男性 (20)」を修飾しており、修飾節を成している。従属節 は、主節の直接構成要素 (ここは、話の「内容」) を形成する含まれ節 (included clause) である。また、重文の等位節は、統計の便宜上、本稿では複文の主節と同様に、主節のデータとして数える。

例 15) このビル 2 階の風俗店で働く従業員の男性 (20) は「午前 1 時ごろ、3 階の方から雷のような音がした」と話しているという。【ビル火災】

例文	このビル 2 階の風俗店で	働く	従業員の男性(20)は
主節の意味役割			発言者(主題・主語)
従属節 の意味役割	場所 (主語行為者の省略/照応先：被修飾節)	自動	

例文	{ 「午前 1 時ごろ、	3 階の方から	雷のような音が	した」}
主節の意味役割	内容			
従属節 の意味役割	時間	場所	事柄(主語)	自動

例文	と話しているという。
主節の意味役割	発言

ここの「という」は助動詞と見なして、その意味役割を分析しない。

例 16) は主節 と主節 から構成され、主節にはさらに含まれ節が埋め込まれている。主節の「警視庁」はこの文の主題と主節 の主語として働き、その意味役割は「行為者」である。含まれ節の主語であるはずの「警視庁」が主節 の主語とは同一指示であるため、省略されている。

例 16) 警視庁は遺体の身元確認を急ぐとともに、新宿署に捜査本部を設置し、失火と事件の両面で捜査を始めた。【ビル火災 A】

含まれ節	(警視庁が)	遺体の身元確認を	急ぐ
行為者 (主語の省略) 照応先：主節	対象物	他動	

主節	警視庁は	~とともに、	新宿署に	捜査本部を	設置し、
行為者 (主題・主語)	時間	場所	対象物	他動	

主節	(警視庁が)	失火と事件の両面で	捜査を	始めた
行為者（主語の省略）	照応先：主節	様態	対象物	他動

例 17) はもともと主語がない述語の例である。「出火する」という述語の主語が漠然としていて、明確な指示対象を指す主語が見当たらない。例 18) では、「議会上下院で」が意味役割の「場所」として働いており、述語「なる」の主語の指示対象がはっきりしていない。例 19) の下線部は未成節にあたる。「存在の述語」である「入る」の主語は、ここの文脈から直接復元できない。

例 17) …「明星 56 ビル」(地上 4 階、地下 2 階)の 3 階、マージャンゲーム店「一休」付近から「ボン、ボン」という爆発音とともに出火、鉄筋コンクリート建て同ビル延べ 497 平方メートルのうち 3、4 階部分約 160 平方メートルを焼いた。【ビル火災 A】

例 18) 議会上下院で最大勢力の正義党の有力政治家同士の争いになりそうだ。【アルゼンチン大統領辞任 A】

例 19) フェルナンデス国防相などが記者団に語ったところによると、犯人グループは 国会に 入る  
場所 + 存在 **主語なし**

特別許可証を貼り付けた乗用車で正門に乗り付け、降りると同時に自動小銃などを乱射、1 人は体に巻き付けた爆薬で自爆した。【インド国会テロ Y】

以上の分析基準に基づいて、日本語の新聞記事と中国語の新聞記事における主語の意味役割と主題の意味役割を考察し、日本語と中国語の言語的相違を明らかにしたいと思う。

#### 4 考察

本稿の分析の材料は、2001 年 4 月～12 月の間にインターネットより収集した同一事件に関する日本語新聞記事 50 編と中国語新聞記事 50 編、あわせて 100 編である。翻訳や作文能力などによる文章品質の不均等さによる影響を避けるため、実験的にまったく同一な出来事に関わる日本語と中国語の新聞記事を選択した。日本語の記事は、朝日新聞と読売新聞のネット記事であり、中国語の新聞記事は、台湾では朝日・読売新聞に相当する中国時報と聯合報のネット記事より取り上げたものである。100 編の新聞記事の話題は以下の通りになる。A は朝日新聞、Y は読売新聞、C は中国時報、L は聯合報の略である。括弧の中は記事の日付と出所の新聞紙を示す。

インド国会テロ(4/13:AY 4/14:CL) 米中軍機接触事件、乗員ハワイ到着(4/13:AYCL) 米が中国を非難(4/13:AYCL) 比前大統領逮捕(4/17:AYCL) 李登輝訪日(4/23:AYCL) モンテネグロ議会選(4/23:Y 4/24:ACL) 新総裁に小泉が当選(4/24:Y 4/25:ACL) 比乱闘(5/1:AY 5/2:CL) 宇宙観光(5/7:AYCL) 法王のモスク訪問(5/7:A 5/8:YCL) 列車強盗がイギリスでご利用(5/8:AYCL) 女性天皇に賛同(5/9:A 5/10:YCL) ガーナサッカー場惨事(5/10:AY 5/11:CL) エルサレム結婚式会場崩落(5/25:AY 5/26:CL) ペルー地震(6/24:A 6/25:YCL) 日本ビル火災(9/1:AY 9/2:CL) 狂牛病(9/11:AYCL) 台湾の台風(9/17:AY 9/19:CL) 米が ABM 条約脱退(12/14:AYCL) テロ関与のビデオ公開(12/14:AYCL) <sup>21</sup> 沖縄と台湾の地震(12/18:AYCL) <sup>22</sup> アルゼンチン大統領辞任(12/21:AYCL) <sup>23</sup> 不審船(12/23:AYCL) <sup>24</sup> 靴に爆弾(12/23:A 12/24:YCL) <sup>25</sup> タイム誌人物(12/23:AY 12/24:CL)



記述便宜上、日本語の新聞記事 50 編を「JP」、又は「日本語」、中国語の新聞記事 50 編を「CH」もしくは「中国語」と略称することがある。以下、意味役割・主語・主題との三つの側面から、日中の新聞報道記事の特徴と相違を考察する。

#### 4.1 述語の種類、意味役割の分布、各種の節

##### 4.1.1 述語の種類と意味役割の分布

日本語 50 編の新聞記事と中国語 50 編の新聞記事の述語の種類は、表 1 のようにまとめられた。マイナスになっている数字は、日本語 50 編で観察された項目が、中国語 50 編で測定された項目と比べて、より数が少ないことを表している。日本語と中国語との弁別的な部分について、網掛けで表示する。

日本語 50 編の新聞記事においては、省略された述語を含め、普通動詞の他動詞と普通動詞の自動詞・認識動詞・関係動詞は、中国語 50 編の新聞記事よりも、多く用いられている。それに対して、中国語 50 編は日本語 50 編と比べ、発言述語 (JP>CH5.5%)・存在述語 (JP>CH2.8%)は、より高い比率を占めている。中国語の新聞記事は比較的、人間の発言、人物・物事存在・出現などの動作に着目していると言える。

日中の共通点について、普通動詞の他動詞が他の述語より、目立つ割合になっている (JP41.4%、CH36.7%)。自動詞も入れれば、JP の全体に占める普通動詞の出現率が 52.3%、CH の場合は 46.1%、新聞記事の大半を構成している。

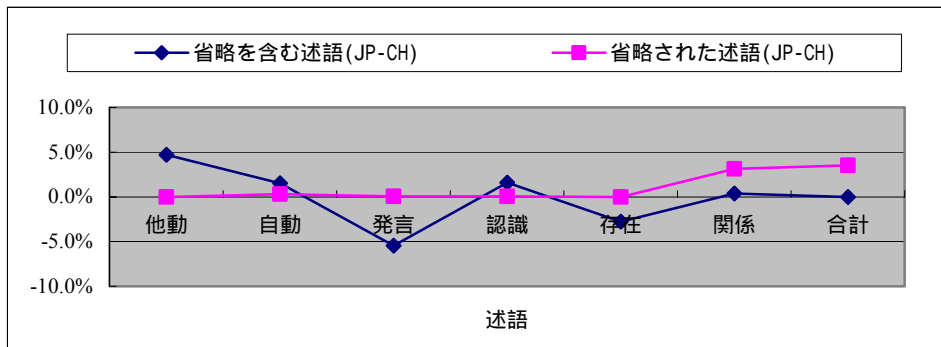
省略された述語に関して、JP は CH と比べて述語がより省略されやすい (JP>CH:3.5%)。特に日本語の省略された関係動詞が 3.6%も占め、目立つ比率となっている。

表1 新聞記事 100 編における述語の種類

述語 (省略を含む)	JP50 編	CH50 編	JP が CH より	省略された述語	JP50 編	CH50 編	JP が CH より
他動	41.4	36.7	4.7	他動	0.1	0.1	0
自動	10.9	9.4	1.5	自動	0.3	0	0.3
発言	6.4	11.9	-5.5	発言	0.1	0	0.1
認識	11.2	9.6	1.6	認識	0.1	0	0.1
存在	13.4	16.2	-2.8	存在	0	0	0
関係	16.6	16.3	0.4	関係	3.6	0.5	3.1
合計	100	100	0	合計	4.1	0.5	3.5

数字は% 四捨五入の関係で誤差 0.1%の可能性有り。以下同様。述語(省略を含む)JP:1690 例 CH:3280 例 省略された述語: JP69 例 CH18 例

図1 述語の種類



日本語はナル型の言語だと指摘されてきたが、なぜここでの他動詞の頻度は、スル型の言語に属する中国語の新聞記事よりも多いのかが疑問である。受身化について調べた結果、日本語 50 編の 699 例の他動詞のうち、109 例（他動詞全体の 15.6%）が受身になっており、中国語 50 編の 1202 個の他動詞のうち、104 個の受身の例が（他動詞全体の 8.7%）存在した。日本語では、他動詞を使っている、受身文にすることによって、スル型言語の他動性を緩和していると考えられる。

さらに、受動化された他動詞の文脈を調べたところ、日本語 50 編の場合、不都合な状況が 6.7%、そうでない文脈（中立受身）が 8.9%を占めている。それに対して、中国語 50 編は不都合な状況が 7.3%、中立受身がわずか 0.9%の出現率になっている。中国語の受身文は、主に主体にとって不都合で、望ましくない文脈に用いられ、一方、日本語の受身文は、不都合の場合よりも、中立的な文脈で使用されることのほうが多い。ここから、日本語の受動化と日本語の尊敬語である「れる、られる」との接点が窺えるのではないだろうか。

例 20・21) は、不都合な状況で用いられた受身の他動詞の例である。

例 20) (爆弾に火をつけようとした男を抑えた) 客室乗務員ら 2 人が手をかまれるなどして傷を負った。【靴に爆弾 Y】

例 21) 即趨前阻止，不料竟被對方咬一口，【靴に爆弾 L】

(乗務員は) 近づいて阻止しようとしたが、まさか相手にかまれてしまった。

例 22) は、日本語の中立受身の例である。それと同じ文脈の中国語の例は受動化されていない。

例 22) 結婚パーティーは 4 階のホールで行われており、【エルサレム結婚式場床崩落 A】

婚禮は 在這棟禮堂的頂樓 舉行，【エルサレム結婚式場床崩落 C】

結婚パーティーは このセレモニー・ホールの最上階で 行った

(結婚パーティは、このセレモニー・ホールの最上階で行われた)

さらに、表 2 から、自動詞と関係動詞は受動化されることが分かる。日本語は全般的に中国語より受身が多く、特に他動詞と認識動詞の受動化が目立つ。

受身の認識動詞の例は次のようなものがある。

例 23) 不審船は機関室があると見られる前方の甲板部分から出火、【不審船 Y】

表2 受身の割合

受身	JP	CH	JP が CH より
他動	6.72%	3.19%	3.54%
発言	0.12%	0.00%	0.12%
認識	3.21%	0.09%	3.12%
存在	0.06%	0.03%	0.03%
合計	10.12%	3.31%	6.81%

省略を除く述語 JP:1621 CH:3262 受身 JP:164 例 CH:108 例

意味役割の分布は表 3 のように統計された。無情名詞の比率は括弧に囲んで表示する。日本語は有情名詞より無情名詞が多用され、中国語は有情名詞を多く選択している。有情対無情の日中の差はそれぞれ「有情：JP < CH 6.3%、無情：JP > CH 3.1%」となっている。動作・状態の主体（以下、主体）が担う意味役割について、日中とも「行為者」が高い比率で現れている（JP：7%、CH：9%）。中国語 50 編の「発言者」が日本語のより頻繁に使用されたことは日中の相違点だと言える（JP < CH：2.7%）。動作・状態の客体（以下、客体）では、日中とも「対象物」がトップの意味役割として選ばれているが（JP：16.8%、CH：11.9%）、日本語のほうが中国語より 4.9%が高い。状況要素では、「時間」と「場所」が頻繁に用いられるが、日本語は「場所」、中国語は「時間」が一番高い出現率になっている。

表3 意味役割の分布

意味役割	動作・状態の主体				動作・状態の客体				状況要素								有情 (無情)
	行為者 (事柄)	発言者	認識者	存在者 (存在物)	体现者 (体现物)	対象者 (対象物)	内容	属性	時間	場所	手段	相手	範囲	様態	理由	情報源	
JP50 編	7.0 0.7	1.9	1.9	1.4 (3.4)	1.7 (4.2)	5.3 (16.8)	7.8	8.5	11.0	12.6	1.9	1.3	3.0	3.2	1.8	4.4	19.4 (25.1)
CH50 編	9.0 (1.5)	4.6	2.6	2.1 (3.7)	1.4 (4.8)	6.5 (11.9)	8.5	6.0	11.7	9.5	1.0	1.2	1.9	2.1	1.0	9.3	25.7 (21.9)
JP が CH より	-2.0 (-0.8)	-2.7	-0.6	-0.7 (-0.4)	0.3 (-0.6)	-1.2 (4.9)	-0.7	2.5	-0.7	3.0	0.9	0.1	1.1	1.1	0.7	-4.9	-6.3 (3.1)

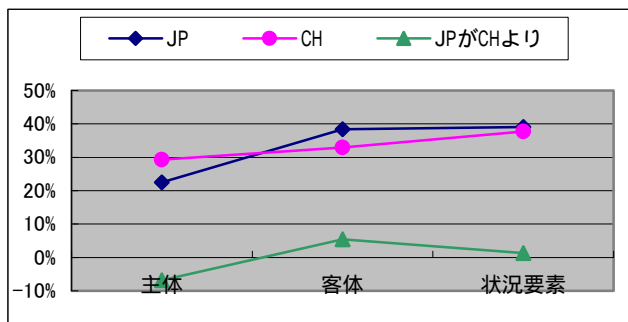
数字は% JP の意味役割：3193 例 CH の意味役割：7091 例

全体的に見れば、CH の主体が JP より高い比率で現れており（JP < CH：6.8%）、それに対して、JP は CH と比較して、より頻繁に客体と状況要素を描いている（表 4 を参照）。

表4 主体・客体・状況要素の割合

意味役割	主体	客体	状況要素	合計
JP	22.5%	38.4%	39.1%	100.0%
CH	29.3%	33.0%	37.8%	100.0%
JP が CH より	-6.8%	5.5%	1.3%	0.0%

図2 意味役割の分布



#### 4.1.2 各種の節

節は、他の節に依存しているかどうか、修飾されているか否かによって、文の主節、主節を修飾する修飾節、主節の中の含まれ節、含まれ節の修飾節、含まれ節の中の含まれ節に分類した（表5を参照）。各種の節に生じた述語の種類と意味役割を調べた結果、新聞記事の描写において、日中とも半分以上は主節で物事を描くことが判明した。相違点に関して、日本語の50編はより多くの構成要素（JP > CH: 10.8%）が修飾節、及び含まれ節の修飾節の中に生じ、中国語50編はより多くの述語と意味役割（JP < CH: 15.3%）が含まれ節、さらに含まれ節の中の含まれ節に現れている。

表5 各種の節に占める構成要素の割合

各種の節	JP50編	CH50編	JPがCHより
主節	61.4	56.9	4.5
修飾節	15.8	6.3	9.5
含まれ節	16.5	28.8	-12.3
含まれ節の修飾節	3.6	2.3	1.3
含まれ節の中の含まれ節	2.7	5.7	-3.0
合計	100.0	100.0	0

数字は% 構成要素 JP:4814例 CH:10123例

例24)と例25)の網掛けの部分のように、日本語の修飾節で描かれた内容は、中国語の記

事では含まれ節で述べられている。例 24) では、この事象の発言者が助動詞「～という」によってあいまい化され、主節の主語には存在者の「観客」が用いられている。逆に、中国語の記事では、「発言」という動作が明確化され、主節の主語は発言者の「目撃者」になっている。CH 例 25) の含まれ節「内容」には、さらに含まれ節「事柄」があり、「事柄」は他動詞「導致」の主語として働いている。

例 24) 【ガーナサッカー場惨事 A】

{	この騒動を	抑え	警察官が	催涙ガスを	使ったため、}	逃げよう	とした	観客が	出口に	殺到したという。
理由	対象物	他動	行為者	対象物	他動	自動	存在者	場所	存在	

例 25) 【ガーナサッカー場惨事 C】

目撃者	說，	{	是警察	向騷亂	的觀衆	發射	催淚	瓦斯，	人群	驚慌	奔逃、}	才導致	推擠踐踏）；	
目撃者は	言った	とを{	警察が	騷いだ	觀客に	發射	催淚	した	ガス	人々が	慌てて	逃げた}	もたら	押し合ったり、踏
発言者	発言	内容柄	行為者	対象者	他動	対象物	行為者	様態	自動	他動	対象物			

修飾された要素とそれを修飾する連体修飾節の間に内の関係又は外の関係が存在するとされる (寺村 1992 を参照)。これについて調べた結果、日本語 50 編の場合、外の関係が 48.4%、内の関係が 51.6%になっている。中国語 50 編は外の関係が 34.5%、内の関係が 65.4%の割合で現れている。JP は CH と比較して、修飾節と被修飾節がより多くの外の関係を成していることが伺える (JP > CH : 13.8%)。このデータは、日本語の修飾節が中国語のより多く用いられる現象を説明する手がかりを示唆するが、更なる研究が必要である。

## 4.2 主語

### 4.2.1 主語が主節か、含まれ節か、被修飾節か

表 6 のように、主語に関して、JP と CH は両方とも主節の場合が一番多く、次が被修飾節、最後が含まれ節の順番になっている。しかし、日本語 50 編の被修飾節が 14.5%であり、中国語 50 編の 7.3%と比べ、約倍であることが分かる。日本語の主語は中国語の主語より、その前に連体修飾成分が先行する頻度が高い。

表6 主語の形態

主語が～	JP	CH	JP が CH より
含まれ節でもなく、被修飾節でもない	82.8%	90.5%	-7.6%
被修飾節	14.5%	7.3%	7.2%
含まれ節	2.7%	2.3%	0.4%
合計	100.0%	100.0%	0.0%

JP 主語 890 例 CH 主語 : 2199 例

## 4.2.2 主語が分担する意味役割

表 7 から分かるように、日中とも、主語になりやすい順序として、最初は動作の主体（JP：78.9%、CH：88.7%）、次は動作の客体（JP：20.7%、CH：10.8%）、最後は状況要素の「場所」（JP：0.4%、CH：0.4%）である。動作・状況の主体が主語の 7 割以上を占めていることが分かる。

「場所」以外の状況要素が主語を担う例は、今回の調査では見当たらなかった。主語として働きやすい意味役割のトップ 3 に関して、日本語 50 編は「行為者・事柄（26.8%）> 体现者・体现物（20.9%）> 対象（19.1%）」中国語 50 編は「行為者・事柄（30.5%）> 体现者・体现物（19.3%）> 存在者・存在物（16.3%）」になっている。普通動詞と関係動詞の主体の次に、日本語が「対象」、中国語が存在動詞の主体を主語として選択する傾向がある。ただし、日本語の主語が意味役割の「対象」（JP > CH：8.4%）、中国語の主語が「発言者」（JP < CH：7.7%）を担うケースが多い。

主語が有情名詞が無情名詞であるかについて、中国語は 50 編の意味役割と同じく、有情名詞が無情名詞より多く使用されている。日本語は有情名詞が無情名詞より多用され、50 編の意味役割とは正反対な結果となった。日中の差異に関して、日本語の主語は無情名詞が多く用いられ（JP > CH：8.7%）、中国語の主語は有情名詞が高い比率になっている（JP < CH：10.1%）。

表 7 主語有りの場合の意味役割

主語の意味役割	動作の主体					動作の客体			状況要素	有情名詞 (無情名詞)
	行為者 (事柄)	発言者	認識者	存在者 (存在物)	体现者 (体现物)	対象者 (対象物)	属性	内容	場所	
JP50 編	24.6 (2.2)	6.9	7.0	5.2 (12.1)	6.0 (14.9)	8.0 (11.1)	1.3	0.2	0.4	57.5 (40.4)
CH50 編	26.5 (4.0)	14.6	8.1	6.6 (9.7)	4.5 (14.8)	7.4 (3.3)	0.1	0.0	0.4	67.6 (31.7)
JP が CH より	-1.9 (-1.7)	-7.7	-1.2	-1.4 (2.4)	1.5 (0.2)	0.6 (7.8)	1.3	0.2	0.0	-10.1 (8.7)

数字は%。JP の主語:890 例 CH の主語 2199 例

表 8 では、主語が省略された JP の 712 例と CH の 1022 例は、それぞれ 42.1% (JP) と 31.2% (CH) の割合で現れている。日本語は中国語と比較して主語が頻繁に省略されている（JP > CH：10.9%）。日中とも意味役割の「行為者・事柄」を担う主語が最も省略されやすい。

表8 省略された主語

主語省略	動作の主体					動作の客体		合計	有情 (無情)
	行為者 (事柄)	発言者	認識者	存在者 (存在物)	体现者 (体现物)	対象者 (対象物)	内容		
JP50 編	17.0 (2.7)	2.1	4.7	2.4 (1.4)	1.9 (3.4)	2.6 (3.8)	0.2	42.1	30.6 (11.3)
CH50 編	12.5 (1.8)	1.6	3.2	4.2 (1.3)	1.6 (2.0)	1.9 (1.0)	0.1	31.2	25 (6)
JP が CH より	4.5 (0.9)	0.5	1.4	-1.8 (0.1)	0.3 (1.5)	0.7 (2.8)	0.1	11.0	5.6 (5.3)

数字は%。省略を含む述語JP：1690 例 CH：3280 例

中国語は全般的に日本語ほど主語が省略されることはないが、意味役割の「存在者」を担う主語に限って、日本語より省略されやすい。例 26~29)の下線部は主語の「存在者」が省略された例である。中国語の新聞記事はより並立節で人物の移動の過程を描き、並立節の同一指示削除によって、主語の「存在者」が省略されたと考えられる。

例 26) モスクはウマイヤ朝時代の 8 世紀初め、キリスト教の教会だった場所に建立された。内部には聖ヨハネ(ヤヒア)の首が納められているといわれる廟(びょう)があり、法王はその前で祈りをささげた。【法王のモスク訪問 A】

例 27) 専用車で旧市街中心部のモスクに到着した法王は、イスラム教のしきたりにならい入り口で靴からスリッパに履き替えた後、シリア最高位のイスラム法学者アハマド・キフタロ師の案内でモスク内部に入場。礼拝所東側に位置する「洗礼者ヨハネの廟」に額ずき、約二分間黙とうを捧げた。【法王のモスク訪問 Y】

例 28) 教宗隨後遵從伊斯蘭教禮俗，讓秘書爲他脫下鞋子，換上拖鞋，他拄著手杖，在卡夫塔羅教長與兩大宗教眾多神職人員陪同下進入倭馬亞清真寺，跨越門檻時還稍微絆了一下。教宗在寺內一處聖壇前方駐足，倚柱凝思默禱，然後移駕中庭，聆賞可蘭經古調吟唱。教宗在寺中停留了九十五分鐘後才離去。(直訳：法王がイスラム教のしきたりに従い、秘書に靴を脱がせてもらい、スリッパに履き替え、彼は杖を持っており、キフタロ師及び両宗教の指導者に伴って、ウマイヤド・モスクに入場し、敷居を跨ぐときちょっと躓いた。法王はモスク内にある聖壇の前に佇み、柱に凭れて黙禱をささげ、中庭へ移動し、コーランの吟唱を鑑賞した。法王はモスク内に 95 分間留まり、その後離れていった。)【法王のモスク訪問 C】

例 29) 在昨天進入位於大馬士革舊城區的大烏瑪雅清真寺時，教宗遵守回教徒傳統，必恭必敬的脫鞋後進入，隨即在清真寺內瀏覽，並在傳說中基督徒與回教徒均奉爲先知的施洗者約翰的墓穴旁冥思一分鐘，前後停留約九十五分鐘後【主語の省略：存在者】離去，(直訳：昨日ダマスカスの古い町にあるウマイヤド・モスクに入場した時、法王はイスラム教のしきたりに従い、恐縮にスリッパを脱いだ後、入場し、すぐモスク内で見学し、伝説中キリスト教徒とイスラム教徒が聖者として奉る洗礼者ヨハネの墓の横で一分間黙禱をささげ、前後 95 分間ぐらい留まった。【法王のモスク訪問 L】

#### 4.3 主題

主題は話し手が伝達するとき、最初に選んだ要素である。主題を考察することによって、日中新聞報道記事の書き手が物事のどの部分を出发点として描き出すのかが解明できる。



#### 4.3.1 主題が含まれ節か被修飾節か

主題として選ばれた要素は、被修飾節か、それとも含まれ節の形で主節に埋め込まれるのかについて調べた結果、表 9 が得られた。

表 9 では、含まれ節の主題が日中がほぼ近い割合になっているが、日本語 50 編においては被修飾節の主題は中国語 50 編より高い比率を占めている（JP > CH : 5.2%）。逆に、含まれ節でも被修飾節でもない主題は中国語 50 編の方が多い（JP < CH : 6.6%）。主語の形態と同じように、日本語の主題は中国語の主題と比較して、より修飾成分を先行させる傾向がある。

表9 主題の形態

主題が～	JP	CH	JP が CH より
含まれ節でも被修飾節でもない	77.1%	83.7%	-6.6%
含まれ節	7.8%	6.3%	1.5%
被修飾節	15.2%	10.0%	5.2%
合計	100.0%	100.0%	0.0%

JP 主題:554 例 CH 主題:829 例 四捨五入の関係で誤差 0.1%有り

#### 4.3.2 主題が分担する意味役割

表 10 のように、日中とも主語と同様に有情主題が無情主題より多く現れ、そして、日本語はより多くの無情主題が用いられ、中国語はより多くの有情主題が使用されている。主題として選ばれる意味役割について、主体（JP : 47.1% > CH : 67.1%）客体（JP : 13.9% > CH : 3.7%）状況要素（JP : 39% > CH : 29.2%）。主語の結果と比較すれば、動作・状態の主体は主題としても働きやすいが、客体主題の出現率が減るとともに、状況要素の主題が日中とも 25% 以上増えた。日本語の主体主題が減少し、客体主題が増加したことが特徴的である。

主題を担う意味役割の上位の三項目は、JP が「行為者・事柄（16.6%）> 体现者・体现物（11.5%）> 場所（9.0%）」、CH が「発言者（27%）> 行為者・事柄（18.9%）> 時間（11.8%）」となっている。さらに、日本語の主題が関係動詞の主体と「場所」、中国語の主題が「発言者」と「時間」が多用されることは、従来指摘されてきた日本語対中国語の「静的な性格対動的な性格」という差異を裏付けた。

また、日本語の基本語順は、「時の修飾語 - 場所の修飾語 - 主語（～ガ） - 与格（～ニ） - 対格（～ヲ） - 述語」とされるが（佐伯 1960 と宮島 1962 参照）、実際文章の中に生起する文頭の要素は、「時間」が最も多いことが明らかになった。主題化とは、文中の要素を文頭に生起させることであるので、文の最初の直接構成要素を主題として判断することはやはり妥当であった。日本語と中国語の各構成要素の順序を解明することは今後の課題として残される。



表 10 主題の意味役割

主題の 意味役割	動作の主体					動作の客体			状況要素								述語			有情 (無情)
	行為者 (事柄)	発言者	認識者	存在者 (物)	体現者 (物)	対象者 (物)	内容	属性	時間	場所	手段	相手	範囲	様態	理由	情報源	他動	認識	存在	
JP	16.1 (0.5)	7.4	5.2	2.9 (3.4)	2.7 (8.8)	2.0 (6.1)	3.2	2.5	7.6	9.0	0.4	0.5	7.6	0.9	4.5	8.3	0.2	0.0	0.0	36.3 (19.0)
CH	16.4 (2.5)	27.0	5.4	4.3 (2.5)	1.9 (6.9)	2.2 (1.2)	0.4	0.0	11.8	6.3	0.0	0.1	4.9	0.8	0.8	3.7	0.4	0.1	0.1	57.3 (13.1)
JP が CH より	-0.3 (-2.0)	-19.6	-0.2	-1.5 (0.9)	0.8 (2.0)	-0.2 (4.9)	2.9	2.5	-4.2	2.8	0.4	0.4	2.6	0.1	3.7	4.6	-0.2	-0.1	-0.1	-21.0 5.8

数字は% 主題 JP:554 例 CH:829 例

## 5 結び

本稿は Halliday (1994) の他動性の観点から、インターネットより収集した日中の新聞記事各 50 編に対して、主語と、Halliday (1994) が提唱した話題的主題 (文の最初の経験構成的要素) が担う意味役割を考察してきた。その結果、主語と主題を担う意味役割の上位の三項目は次のようになる。

日本語 主語：行為者・事柄 (26.8%) > 体現者・体現物 (20.9%) > 対象 (19.1%)

主題：行為者・事柄 (16.6%) > 体現者・体現物 (11.5%) > 場所 (9.0%)

中国語 主語：行為者・事柄 (30.5%) > 体現者・体現物 (19.3%) > 存在者・存在物 (16.3%)

主題：発言者 (27%) > 行為者・事柄 (18.9%) > 時間 (11.8%)

主語の意味役割について言えば、日本語の場合は「対象」が、中国語の場合は「存在者・存在物」が三番目に来ている。一方、主題に関しては、中国語は「発言者」と「時間」、日本語は「体現者・体現物」と「場所」がより頻繁に用いられている。

### < 注 >

- 1) 中国語では存在・出現を表す文の主語は文末に来ることがある。例：外面來了一個學生。(外から 1 人の学生がやってきた。)
- 2) この表は永野 (1986:144) の表に基づき、引用者が再整理したものである。
- 3) 注 1 のように、中国語においては、主体の存在・出現を示す述語は他の述語とは異なる振る舞いをしており、独特なグループを成している。
- 4) ~ は自動詞・他動詞の区別にも当てはまるが、「開く/開ける」のような自動詞對他動詞の区別は特に外国語学習者を困惑させる。そのため、ここでは普通動詞のみの区別を議論する。また、認識動詞は基本的に Halliday(1994)でいう行動・心理過程の過程で核部になり、存在動詞は存在過程、普通動詞は物質過程、発言動詞と関係動詞は発言過程と関係過程に属する。
- 5) 名詞句と書いてあるが、節の場合もある。以下は同様。
- 6) 「~によると」は通常、表現方式のモダリティと認められる。しかし、新聞記事の「警察当局によると」などのような語句には、取り上げられた出来事の経験的な概念が含まれているので、ここ

でも意味役割があると判断する。

7) ここでの主語は文法的な主語 (grammatical subject)を指す。

<参考文献>

- 天野みどり 1998、「前提・焦点」構造からみた「は」と「が」の機能」『日本語科学』3、pp67-85 国立国語研究所編 国会刊行会
- 屈承熹 2000、「話題的表現形式與語用關係」『現代中国語研究 第1期』pp18-34 朋友書店
- 久野暲 1973、『日本文法研究』大修館書店
- 研究社 1992、『新英語学辞典』研究社
- 佐伯哲夫 1960、「現代文における語順の傾向 いわゆる補語の場合」『言語生活』No.111、pp56-63、筑摩書店
- 柴谷方良 1990、「主題と主語」『講座 日本語と日本語教育 12 言語学要説（下）』、pp97-126 明治書院
- 鈴木秀夫 1989、「動詞の格支配」『国文学解釈と鑑賞』第54巻第7号、pp34-40 至文堂
- 曹逢甫 1995、『主題在汉语中的功能研究 迈向语段分析的第一步』（謝天蔚訳）原書：Tsao, Feng-fu (1979) *A Functional Study of Topic in Chinese: The First Step Toward Discourse Analysis*, Student Book Co., Taipei.
- 陳平 1994、「试论汉语中三种句子成分与语义成分的配位原则」『中国语文』No.240 新華書店、北京
- 寺村秀 1992『寺村秀夫論文集 日本語文法編』くろしお出版
- 永野賢 1986、『文章論総説』朝倉書店
- 野田尚史 1996、『新日本語文法選書 1「は」と「が」』くろしお出版
- ハリデー, M.A.K.著、山口登・寛壽雄訳 2000、『機能文法概説：ハリデー理論への誘い』くろしお出版。  
原書: Halliday, M.A.K. 1994, *An introduction to functional grammar*, Edward Arnold, New York.
- 益岡隆志 1987、『命題の文法 日本語文法序説』くろしお出版
- 宮島達夫 1962「力カリの位置」『計量国語学』No.23、pp3-11 計量国語学会
- Fukuda, Kazuo 1995, “ Theme/Rheme, Given/new and Japanese *Wa*” *Studies in Humanities*, No.89, pp 105-128, Niigata University.
- Halliday, M.A.K. 1994, *An Introduction to Functional Grammar*, Edward Arnold, New York.
- Li, Charles N. & Sandra A. Thompson 1976, “Subject and Topic: a New Typology of Language,” pp457-489, in C. Li, ed., *Subject and Topic*, Academic Press, New York.
- Tsao, Feng-fu 1978, “Subject and Topic in Chinese”, pp167-196, in T. Tang, ed., *Proceedings of Symposium on Chinese Linguistics, 1977 Linguistic institute of the Linguistic Society of America*, Student Book Co., Taipei.

主指導教員（船城俊太郎教授） 副指導教員（大橋勝男教授・中西啓子教授）